



2015.9.25
第158号

発行
福島県市町村
教育委員会
連絡協議会
北会津支
耶麻沼支
両沼支会

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

会津人の誇り



会津教育事務所
業務次長兼学校教育課長
菊地 裕二

菊地 裕二

ちょうど「八重の桜」が放映されていた頃、会津とのゆかりや文化遺産に惹かれ京都に出かけた。新島旧邸、池田屋跡地、蛤御門、鳥羽伏見の戦い跡地など、見るもの見るものが歴史的事象と相まって感慨無量となった。

その中でも、感慨深かったのが黒谷金戒光明寺である。京都守護職となった松平容保と約1000人の会津藩士が生活拠点とした堂塔伽藍である。点在する小さな伽藍、威風堂々とした本堂を参拝し、ふと境内から裏山に広がる墓園の入口を見ると、「会津墓地参道」という標示が目にとまった。「なんだらう？」興味にそそられ参道をしばらく登ると、そこには、「会津墓地」

なる丁寧に整備された一角があった。

なぜ……。(当時の京都の町は、治安が乱れ荒れた状況でした。しかし、容保率いる会津藩士の働きで、日に日に住みやすい町に変わっていくのです。そんな中で、命を落とした会津藩士約230名に、京都の人々が敬意と感謝を込めて造った墓地なのでした。さらに、その後の鳥羽伏見の戦いで亡くなった会津藩士も葬られているそうです。)

会津から遠く離れた地で、帰郷の日を信じながら、忠義と正義を貫いて亡くなっていった先人達の思いを察すると感慨一入となった。また、京都の人々に手厚く葬られ、約150年過ぎ

た今も供養され続けていることに感動した。有名偉人も多い中、私の知らない多くの会津人が、世のために残した功績の大きさに驚いた。そこには、会津藩士が長い時を経てつくり上げ引き継いできた知性や道徳概念、行動規律等の産物があったからだと感じる。

時代がいかに変われども、会津の先人達が残してくれた産物を児童生徒にしっかりと伝え、その考え方や生き方から学ばせ、会津人として誇りをもって生きる人間に育てたい。それが、将来のふくしまの復興・再生を担う人材やグローバルリーダー育成につながるものと感じて旅を終えた。



前期の所長・管理訪問から

要です。

前期は、小中学校62校を訪問いたしました。訪問した多くの学校で、校舎内外の安全に配慮され、整頓された環境の中、生き生きと取り組む児童生徒の姿や、授業の改善や工夫に真摯に取り組む先生方の姿に触れることができました。校長先生の経営ビジョンの下、学力向上や生徒指導の充実等に、教職員一人一人が積極的に関わり、組織的に実践していることを実感しました。

今年度、新たな人事評価の試行が始まりましたが、目標管理の手法を機能させ、教職員の職務遂行能力の向上や教育活動の充実、組織の活性化につなげられるよう、有効に活用してほしいと思います。

また、少人数教育の充実については、全国学力テスト等の結果から課題を把握し、指導形態や指導方法の工夫等、更なる学力向上の取組を充実させることが必要です。

不祥事防止については、各学校で校内事務倫理委員会の工夫や風通しのよい職場づくりなどにも、懸命に取り組んでいました。しかし、この一学期、速度超過、交通加害事故(追突)、情報記憶媒体の紛失等が昨年同様発生しております。再度、自校の「不祥事防止のための行動計画」を検証し、一人一人の教職員の危機管理意識を高める取組を具体的にお願いたします。

学校事故防止については、日常の巡視点検の徹底、防火診断や安全点検に基づく改善・整備に努めるとともに、施設管理、火気管理、可燃物撤去を完全に行い、学校事故の絶無を期するようよろしく願いたします。

さらに、危機管理対応マニュアルが機能するものとなるよう、避難訓練等の工夫についても計画的に願いたします。

総務社会教育課だより

1 読書活動支援者育成事業 人材育成基礎研修（研修A）

- (1)日 時：平成27年7月6日（月）
 (2)会 場：会津美里町新鶴公民館
 (3)内 容：講演、講話・演習、グループ別研修
 (4)参加者：読み聞かせボランティア及び学校司書等63名
 ◇講演「学校図書館司書と図書ボランティアとの関わりを通して」



・講師：会津農林高等学校 学校司書 鶴見美佐子氏
 ・内容：学校図書館における司書の役割や図書ボランティアの役割について、具体的な活動事例を交えながらの講演は、参加者の活動の指針となる内容でした。



◇講義・演習

「はじめての読み聞かせ ～コツとポイント～」

- ・講師：J P I C（出版文化産業振興財団）読書アドバイザー 児玉ひろ美 氏
 ・内容：読み聞かせに適した本の紹介や実際に読み聞かせの実演等、読み聞かせボランティアの技能向上に大いに役立つ講義・演習でした。



～社会教育関係事業の紹介～

- ◇グループ別研修A「読み聞かせボランティアの取組・活動事例」
 “ B「魅力ある図書館づくり」

- ・講師A：会津美里町 読み語り「たんぼぼの会」 白岩洋子 氏
 ・講師B：喜多方市立喜多方第一小学校 司書教諭 渡部美恵子 氏
 ・内 容：お二人の講師から実践例の発表があり、参加者からも数多くの質問等が寄せられ、活発な研修となりました。



2 親子の学び応援事業（家庭教育）

- (1)日 時：平成27年7月11日（土）
 (2)会 場：西会津町立西会津中学校
 (3)内 容：家庭教育講演&コンサート
 (4)参加者：西会津中生徒・保護者・教職員、一般等236名



◇講演会&コンサート

- ・講師：元フォークグループ「阿呆鳥」 菊池章夫 氏
 ・内容：「未来の子どもたちの輝く笑顔のために」をテーマに行われた講演会&コンサートは、生きることのすばらしさについて、親子でともに考える良い機会となりました。



『生き抜く力を支える「確かな学力」の向上』のために

『生き抜く力を支える「確かな学力」の向上』は、福島県において喫緊の課題となっております。会津教育事務所では、文部科学省や福島県の施策を踏まえ会津域内の確かな学力の向上に取り組んでいます。

『生き抜く力を支える「確かな学力」の向上』のためには、以下のことが大切です。

- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着
- 活用する力の育成
- 学習意欲の向上や学習習慣の確立

会津教育事務所では、次の3つを柱として、子どもたちの生き抜く力を支える「確かな学力」の育成に努めています。

- ◎学力向上グランドデザインの全職員の共通理解に基づいた確実な実践と改善
 (方策) ・全職員の共通理解と共通実践事項の確実な実践と改善に関する指導助言
 ・ショートスパン（定着確認シート）とロングスパン（全国・県学力調査）の評価計画によるP D C Aサイクルの確立状況の確認
 (目標) ・学力向上グランドデザインを全職員で共通理解する学校
 ・共通実践事項の確実な実践と改善を実現する学校

◎「わかる、できる」授業の実践

- (方策) ・HP指導資料集『児童生徒の「できた！わかった！」のために』に基づいた実践についての具体的な指導助言
 ・『少人数教育10の提言』に基づく実施状況の確認と積極的な推進についての指導助言
 (目標) ・『児童生徒の「できた！わかった！」のために』等を活用し、授業を改善する学校
 ・少人数教育のよさを生かして指導体制や指導方法を工夫改善し、個に応じた指導の充実に努める学校

◎確かな学力の向上を支える基礎づくりとしての学習習慣・生活習慣の確立

- (方策) 授業と家庭学習のサイクルの確立状況の確認
 (目標) 授業と家庭学習のつながりを明確にした実践

さらに、「授業改善のための定着確認シート活用事業」「学力調査事業」「学力向上のためのつなぐ教育推進事業」「学校図書館の活性化実践事業」を通して、確かな学力の向上に取り組んでいます。

※各学校においては、全国学力・学習状況調査や福島県学力調査の結果を十分に分析し、P D C Aサイクルを生かし授業改善を図ってください。校長先生のリーダーシップのもと、現職教育と関連させながら、組織として先生方のベクトルをそろえて取り組むことも大切です。



わが町が推進する保育と学校教育

会津坂下町教育委員会教育長 佐藤 玄

会津坂下町の保育・学校教育の推進にあたっての柱は2本である。

一つは「一つの学園構想」の具現であり、もう一つは「幼児教育（就学前教育）の充実」である。「一つの学園構想」とは、足かけ13年間にも及び平成25年春に完了した教育施設適正配置事業（幼稚園2園・小学校2校・中学校1校に再配置）を進める中で、幼稚園から中学校までの一貫性のある教育を実現するため、5つの教育施設を町の「一つの学園」と見立て、「一貫性」「継続性」「共通性」をキーワードに統一性ある教育を実践しようとする考えから固まってきた構想である。（その具体的内容については、「あいづね」155号で掲載済み）

一方、就学前教育については、待機児童解消も視野に入れ、平成25年度より保護者の就労支援の

ために幼稚園の預かり保育を拡充しながら幼保の年齢区分けを行っているが、同時に幼保の連続性を重視し円滑な接続を図るため「幼保共通カリキュラム」を編成・実施するなど、発達段階に適切に対応した保育・教育を一体的に進め、就学前の教育の充実を図っている。また、平成28年度からは幼稚園の3年保育も実施予定である。

折しも平成26年度には、子どもに関する窓口の一元化を図るため、教育委員会が所管する「子ども課」が新設されるなどの町の組織機構改革も行われ、これらの2本の柱により、0歳から15歳に至るまでの保育・教育を、町として責任をもって一体的に推進できる体制が整った。

こうした町としての進むべき方向性が、町内の保育士・教職員にも浸透してきており、今後はその教育成果を問われていく責務を強く感じている。

我がまちからの情報発信

地域に学ぶ「史跡慧日寺跡」の利活用

平安初期の大同2年（807）奈良の学僧「徳一」によって創建された慧日寺は、会津仏教文化の拠点として栄え、寺領18万石、寺僧3,800坊、衆徒4,000を擁していたといわれ、会津一円を寺領として支配していたが、時代の趨勢とともに衰退していった。

慧日寺跡は、昭和45年12月に国の史跡に指定されて以来、発掘調査と並行して整備計画を検討・策定し、史跡の整備を進めてきた。金堂の復元が、平成17年の春に正式決定し、同年冬から着工され、国史跡寺院跡の中心建物としての金堂の復元は全国初の試みであった。平成20年には金堂、平成21年には中門が復元されている。

建物の実物大立体復元された金堂・中門は古代慧日寺における中心建物として重要なものであり、これらの復元によって、来訪者は実際に建物内部に入り、古来の建築技法を目で見て触れるといった体感型の史跡探訪を通じ、古代の歴史空間を具体的にイメージすることが可能となった。また金堂内部に博物館的な機能を持たせることによって、

磐梯町教育委員会

金堂を中心とした古代の仏教儀礼を考察する場となっている。

復元された金堂及び中門は、毎年4月1日より一般公開をし、多くの来場者を集めている。また、町では、観光の拠点として慧日寺を位置づけ、慧日寺金堂でのイベントを開催し、史跡の積極的な活用を図っている。古代においては民衆の精神的なよりどころとなっていた慧日寺は、今日においては町民が文化に接する憩いの場として新たな側面を見せている。

更に現在では「歴史的風致維持向上計画」の最重要拠点として位置づけられ、計画全体の中心として、様々な要素が盛り込まれていく予定である。



史跡慧日寺

作品と指導

絵画

『息をあわせて』



西会津町立西会津小学校
特別支援学級4年 鈴木 陽人

運動会の親子種目の絵です。陽人君はモデリングが得意。写真を見て身体比率にこだわらずダイナミックな構図で描き、好きな色を選択します。担任は、絵の具の量を支援すれば、点描と時間差で塗り重ねることで明暗が出ます。

指導者 寺田 隆一

絵画

『単純化した生物ーマンボー』



坂下町立坂下中学校
一年 佐藤 那奈

単純化したものを背景も考えながら構成し、グラデーションを考えて彩色するデザインの最初の題材として取り上げています。誰もが、美しく作品を作り上げることができる題材だと考えています。

指導者 福地 昌徳

習字

『花鳥風月』



磐梯町立磐梯中学校
三年 田中 樹

樹

行書の特徴（省略、連続、筆順や形の変化）をしっかりと確かめてから、書きだしました。字の配置やバランスが難しく、何度も練習しました。

自分の好きな言葉でもあるので思いを込めて書く事ができました。

指導者 杉山 雅孝

私の抱負

地域の誇りと共に



猪苗代町立
長瀬小学校
校長 鈴木 哲明

猪苗代湖と磐梯山を望み、約一万二千年の歴史を有する本学区は、その名「長瀬川」の示す通り、会津発展の源流となっています。教育についても、地域が一体となってマーケティングや自転車・スキー等の活動を推進し、子どもたちはその期待に応えて、大きな成果を収めています。「よその子を叱る」その様な光景が自然に見られる理想的な地域です。学校では、実践研究を通して七十一名と向き合い、「知・徳・体」のバランスのとれた教育を追究しています。また野口英世博士顕彰記念の各行事と関連させ、未来を拓く児童の育成に努めています。今後とも、地域・家庭と連携を深め、その良さを活かす学校経営をしてまいります。

利用者のために



福島県立
葵高校
主任司書 厚海 仁志

ここ数年、本校図書館の貸出数は減少傾向にあります。それでも県内の高校の中では、トップクラスの貸出数です。そんな本校図書館も、とうとう図書館管理ソフトを導入することにしました。今までは名前や書名を書いて本を借りていましたが、これからはバーコードを読み取るだけで貸出・返却ができるようになります。会津地区の高校では四校目の導入です。今年度は、その準備を図書館職員・図書委員で行っています。本校の蔵書数は、約三万四千冊です。それらすべての書誌データを入力するわけではありませんが、その作業は膨大です。大変な作業ではありますが、システム稼働後の生徒の喜ぶ顔を思い浮かべながら作業をしています。

充実の日々



昭和村立
昭和中学校
教諭 大木 洋子

昭和村立昭和中学校に教諭として着任して三ヶ月が過ぎました。新しい土地、新しい職場に不安でいっぱいでした。しかし、校長先生をはじめとして周りの先生方や保護者の皆様に支えられながらの三ヶ月間は、楽しくあっという間で、はじめの不安など忘れてしまうくらい充実した日々を送ることができています。何よりも、何事にも一生懸命に頑張ろうとする子どもたちの姿には心打たれます。そんな子どもたちのためにこれからの日々は、教科指導、生徒指導、学級経営などについて学んでいきたいです。子どもたちのために自分にできることは何かを常に考え、行動に移すことのできる教員になりたいです。